



No.163

2024.1.30

兵庫県立神戸商業高校

図書館

新着図書紹介

新しい年を迎えて

皆さんにとって新しい年のスタートは4月かもしれません。けれども新年の初めは、何だか気負って夢を抱き目標を掲げたいですよね？ 別にー。と思った人！そこんどこ意識してこの一年を過ごしましょうか。

※冬休みに借りた本がそのままになっていませんか？必ず返却してください。



『うたうおばけ』

くどう れいん【著】

上白石萌音さんが何度も読み返す、愛する一冊。人生はドラマではないが、シーンは急にくる。わたしたちはそれぞれに様々な人と、その人生ごとすれ違う。だから、花やうさぎや冷蔵庫やサメやスーパーボールの泳ぐ水族館のように毎日はおもしろい。短歌、小説、絵本と幅広く活躍する著者が描く、「ともだち」との嘘みたいな本当の日々。大反響の傑作エッセイ！

『椿ノ恋文』

小川 糸【著】

「いつか」ではなく、今、大切な人に伝えたい。鎌倉と小高い山のふもとで、代書屋を営む鳩子。家事と育児に奮闘中の鳩子が、いよいよ代書屋を再開します。「ツバキ文具店」シリーズ最新作。

『となりのナースエイド』

知念 実希人【著】

新人ナースエイドの桜庭澪は、星嶺大学医学部附属病院の統合外科病棟に配属された。技術至上主義の天才外科医・竜崎大河とぶつかりながら、医療行為が許されない立場で患者に寄り添い癒していく。

『 Q 』

呉 勝浩【著】

清掃会社で働くハチは執行猶予中の身。ある日、血の繋がらない姉・ロクから連絡が入る。2人の弟・キュウを脅す者が現れたというのだ。ダンスの天賦の才を持ち、華やかな表舞台で輝こうとする弟のため、ハチは…。

『ちくま新書 シン・中国人』

—激変する社会と悩める若者たち—

斎藤 淳子【著】

進む少子化、激変する結婚・住宅事情、未来を担う若者の奮闘と苦悩など「中国社会のリアルな現在地」を北京からレポート。市井の人々は何を思い人生を歩むのか。



『青椒肉絲の絲、麻婆豆腐の麻—中国語の口福』

新井 一二三【著】

中国語を知らなくても、料理名なら読めるという人は多いだろう。「^{ホイコーロー}回鍋肉」「^{マーボ}麻婆豆腐」…。しかし漢字を一字ずつ見てみると、鍋を回す？ピリ辛料理にお婆さん？ 中国料理を言語という視点から味わい尽くし漢字たちの躍動が五感を刺激する中国美食エッセイ。



キャリアセンターからのおすすめ

『1からのキャリア・マネジメント』

鈴木 竜太/西尾 久美子/谷口 智彦【著】

自分の仕事人生の可能性を広げ、より良いものとするため、学生・社会人を問わずぜひ知っておきたい知識や考え方を身近な事例を用いながらわかりやすく解説。

『1からのデータ分析』 古川 一郎/上原 渉【著】

物語形式で統計的手法が実践的に使われる事例を示し、データの収集、分類、比較、因果関係の推論についての基本が理解できるように工夫された課題解決型の新しいテキスト。

『1からのマーケティング分析』

恩蔵 直人/富田 健司【著】

具体的な商品やサービスの事例から解説。マーケティングなど実際のビジネスに応用できるスキルが身につく！

『ようこそ、ヒュナム洞書店へ』

ファン ボルム【著】

ソウル市内の住宅街にできた「ヒュナム洞書店」。会社を辞めたヨンジュは、追いつめられたかのようにその店を立ち上げた。新米女性書店主と店に集う人々の、本とささやかな毎日を描く。

『星を編む』

凧良 ゆう【著】

第20回本屋大賞受賞作『汝、星のごとく』続編。「春に翔ぶ」一瀬戸内の島で出会った權と暁海。二人を支える教師・北原が秘めた過去。「星を編む」——才能という名の星を輝かせるために、魂を燃やす編集者たちの物語。漫画原作者・作家となった權を担当した編集者二人が繋いだもの。

『実践仕掛学—

問題解決につながるアイデアの作り方』

松村 真宏【著】

「つい、したくなる」にはシカケがある。仕掛けた人も、仕掛けられた人も、どちらも幸せになるそそる仕掛け45事例を収録。あなたの「ちょっと困った」を解決する思考法。

『めざせ！ムシヨラン三ツ星

刑務所栄養士、今日も受刑者とクサクないメシ作ります』

近藤 滋【著】

何も知らず刑務所の炊事工場に飛び込んだ栄養士と、料理初心者の男子受刑者たちの給食作り奮闘記！調理経験ほぼゼロの受刑者たち、ふかしたジャガイモを冷ますために水をかけたり、冷凍コロッケが次々と爆発したり。現役刑務所栄養士である著者と受刑者たちは、数々の失敗にも負けず、試行錯誤を重ねムシヨランならぬ「ムシヨラン、三ツ星獲得」を目指す。

ぶらり選書 2学年 福岡先生

『毎日読みたい 365 日の広告コピー』

ライツ社

ことばってすごい！

生活をしていると、あらゆるところに広告がありますよね。電車に乗っているときの広告、街中の大きな看板広告に興味をもったことはありますか？広告コピーとは、ある商品や企業の魅力を伝えるために考えられたものです。たった一言、たった一行ですが、人の心を動かしたり、共感したり、素敵な言葉があふれています。

この本は、広告コピーを集めたものです。たった一言・一行なのに、なぜか自分の心情にグッとくる言葉があったりします。この言葉が生まれた背景や解説も少し掲載されているので、企業側の視点から「なぜこのコピーなんだろう？」と考えてみるのもおもしろいです。

同じ出版社から「ずっと読みたい 0 才から 100 才の広告コピー」という本もあります。きっと今のあなたの心情にあった素敵な言葉と出会うと思いますよ。手軽に読める本なので、気分転換したいときにでも、ぜひ読んでみてください。